



ロベルト酒井の

南十字の空から

平成 25 年度 ブラジル通信

No. 4 9月17日～9月18日

発行者 豊橋市教育委員会

酒井 憲一

市立保育園訪問

9月17日(火)クリチバ市立の保育園を訪問しました。ブラジルでは学校の名前に「人の名前」をつけることが多く、この保育園は「Yoko Hara 保育園」という日系人の方の名前でした。この方のご主人は、クリチバ市で市議会議員を務め、ABD(出稼ぎ協会)を創設された方です。残念ながら Yoko Hara さんは他界されていましたが、初代園長としての Yoko Hara さんの精神は受け継がれていました。



Yoko Hara 保育園関係者と記念撮影

当日、写真のように園長をはじめ多くの教職員や教育局の方々が出迎えてくださいましたが、全て女性でシャイな私は困惑しました。

ここは0歳4か月～5歳の150人の園児を朝7時から夕方6時まで保育しています。これは短い方で、ブラジルには深夜0時まで預かる保育園もあるそうです。



保育園児たちと共に

印象的だったのは、写真にあるガレージのような遊技場に敷かれた迷路です。迷路は「スタートしたら自分の力でゴールにたどり着く」という自主性を重んじることができることから、保育方針の重要な分野として位置づけているそうです。年齢に合わせて、ペットボトルの障害物を置くなど工夫して取り組んでいました。



市立学校(小1～小5)と州立学校(小6～中

3) を訪問

9月17日(火)と18日(水)に市立と州立の学校を訪問しました。両校は日本の義務教育にあたるので、私はかつての小中学校教員時代を思い出しく感じました。

私は、「市立と州立の連携推進」というミッションがあるため、小学校5年生に州立学校へ進学する不安について、逆に小学校6年生には州立学校へ進学する際の不安だったことについて聞きました。

右の表に、おもな不安についてまとめましたが、教科担任制や学校のことを知らなかったのは、改善すべき点だと感じました。そこで、先生たちに話したところ、以前は入学前の見学会を行うという



市立学校の子どもたちと談笑

進学する際の不安

- ・勉強が難しそう。
- ・先生が厳しいらしい。
- ・教科担任制とは知らなかった。
- ・どんな学校か知らなかった

案があったが、市長が交代し実現しなかったということです。今後、各教育局に交渉していきます。

クリチバ市教育局訪問

9月17日（火）にクリチバ市教育局を訪問しました。局長は首都ブラジリアに出張中ということで、ナンバー2の執行役員 マルコス氏が対応してくださいました。

私は、ブラジルでのミッションを申し上げ、特に「市立と州立の連携推進」「2部制から1部制（全日制）への移行の支援」を強調しました。マルコス氏は賛同してくださり、パラナ州教育局と連携して推進していくと約束してくださいました。



マルコス氏(右端)と共に

先生は「おばちゃん？」

マルコス氏との話で印象的だったのが、「なぜ、ブラジルは小中学校の先生のほとんどが女性なのか？」という点です。マルコス氏は、「上記の疑問について研究した論文がある。それによると、家庭教育を女性が中心で担ってきたように、義務教育期間も教師は母親のような存在でなければいけないという考えが始まりであった。」と。さらに「昔は先生のことを『おばちゃん』と言っていた。それぐらい母性で包み込む教育が伝統であった。ただ、先生を『おばちゃん』と呼ぶのは、現代教育やグローバルな視点からよくないと考え、今は『先生』と呼ぶように教育している。」とのことでした。

ただ、私は「子どもは男女同数ずついるので、それぞれの性に対応したり、子どもへのアプローチが多種多様であったりすればよいのではないか。」と申し上げました。しかし、再び同様のことを繰り返すこととなり、長い歴史の重みは、なかなか覆らないことを実感しました。



ジーパンのクッション

州立特別支援学校訪問

この学校では0歳から17歳までの障害を持つ子どもたち192人が通っています。知的障害や肢体不自由など様々です。ちなみにパラナ州の教育局長のお子さんが障害を持っているということで、州全体で特別支援教育に力を入れています。したがって、学校の職員にも障害を持つ方を採用し、具体的な形で特別支援教育を推進していることを感じました。

ただ、資金面が充実しておらず、写真のように寄付で集まったジーパンに綿を入れて、クッションとして使っていました。

ロベルト酒井の「こんな時どうスルー？」

前号の答えは②です。ヒントが前号にありました。パラナ州教育局長に豊橋のお土産を渡した際、彼はすぐに開けて、テーブルに広げました。このようにブラジルでは頂いたものをすぐに開けることが礼儀だそうです。



では、第4問。ブラジルで買い物をする際、「12.5レアル」とか「8.35レアル」と言われます。1レアル以上は紙幣で（1レアルはコインが多い）、小数点以下は「センダヴォス」と言って（US\$のセントみたいなもの）全てコインです。私は「9.85レアル」とか言われてもわからないので、10レアル紙幣を出して、そのままお釣りをもらいます。しかし、コインがたまる一方で、どうしようかと悩みました。では、私はそのコインをどうしたでしょう？

- ① 頑張っってコインを使っている
 - ② 募金箱を見つけるたびに寄付している
 - ③ 記念として日本に持ち帰る
- 答えは次号で！

